



現代文を読むときと同様に、古文を読むときも、時・場所・人物を表す言葉に注目することが大切。また、月の異名や助詞「の」の識別、係り結びの法則などの基本的な問題は確実に解けるようにしておこう。

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ものを引きのばして、時失ふ者ありけり。人の早苗植うるころ、男、種^①ほどこしてけり。葉月のころ、穂の出でたるに、嵐吹きてければ、「花散りぬ」と嘆くを、「あまりにも急ぎし給へばこそあれ。わが稲は、このころ植多にしかば、嵐のわざはひにもあひはべらず」と、人にたかぶりけり。人の刈り収むるころ、少しばかり穂の見えたるが、はや霜の^②置きてければ、みな枯れぬ。「ことしはいと早く霜の置きしなり」とて、年をのみ罪していまだ悟らざりしとなり。
(松平定信『花月草紙』)

注 *1種ほどこしてけり || 種をまいた。

*2散りぬ || 散ってしまった。

*3霜の置きてければ || 霜が降りてしまったので。

問一 〈仮名遣い〉 線 a 「植多にしかば」、b 「わざはひ」を現代

仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

a _____
 b _____

問二 〈内容理解〉 線①「時」のここでの意味として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 時間
- イ 季節
- ウ 時代
- エ 好機

問三 〈語句〉 線②「人の早苗植うるころ」の「の」と同じ意味・用法のものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 竹取の翁といふものありけり。
- イ 寄りて見るに、筒の中光りたり。
- ウ 夏は夜。月のころはさらなり、
- エ 螢の多く飛びちがひたる。

問四 〈古典常識〉 線③「葉月」とは、何月のことですか。

問五 〈内容理解〉 線④「人にたかぶりけり」とありますが、男が人々に対して得意そうにしていたのはなぜですか。その理由を説明した次の文の()にあてはまる言葉を、現代語で五字以上十字以内で書きなさい。

男が人々よりも()ため、稲の花が嵐にあわずにすんだから。

問六 〈現代語訳〉 線⑤「年をのみ罪して」の現代語訳として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア その年の天候不順のせいにするばかりで
- イ その年に植えた稲の品質のせいにするばかりで
- ウ 世代ごとに方法が異なることのせいにするばかりで
- エ 時代の変化のせいにするばかりで

2 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔^{*1}もろこし^{*2}漢^{*3}の文帝の御代^{*4}に、一日に千里をかくる名馬を進上しける時、公卿大臣、めでたき御重宝かなと申しあへりければ、文帝あざ笑ひ給ひて仰せけるは、我此の馬を重宝と思はず、其の仔細は、我たまたま遊山なぐさみにありく時は、一日にやうやう三十里、また合戦などの時も、多くて五十里に過ぎず。かやうにそろりそろりとありきてこそ、

も疲れず、我に続いて忠功をなす。もしまた時によつていそぐ事ありといへども、かねて疲れぬ人馬なれば、我によく続いて忠功を上げます。されば我一人千里をかくる馬に乗りたりとも、数万の人馬、千里をかけずんばあへて益なしとて、主のもとへ返し給ふ。

注 *1もろこし 昔、日本で中国を指して呼んだ名称。

*2漢の文帝 漢の第五代皇帝。

*3千里をかくる 非常に長い距離を走る。「里」は距離の単位。

*4公卿 朝廷に仕える高官。

*5仔細 詳しい訳。

*6遊山なぐさみにありく 遊びや気晴らしに出歩く。

問一 〈仮名遣い〉 線部「かやうに」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問二 〈会話文把握〉 この古文中には、文帝が言った言葉が一か所あります。古文中からその初めと終わりの三字を書き抜きなさい。

Two empty boxes for writing answers to Question 2.

問三 〈古語〉 線①「めでたき」のここでの意味として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 喜ばしい イ すばらしい
ウ おめでたい エ ぜいたくな

問四 〈内容理解〉 文中から五字で書き抜きなさい。

Empty box for writing answer to Question 4.

問五 〈文脈把握〉 線②「いそぐ事ありといへども」、③「我一人千里をかくる馬に乗りたりとも」には助詞が省略されています。それぞれに助詞を補う場合、次の二つの□に共通する最も適切な助詞をひらがな一字で書きなさい。

Empty box for writing answer to Question 5.

問六 〈内容理解〉 線④「主のもとへ返し給ふ」とありますが、なぜ文帝は名馬を持ち主に返したのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 能力の高い馬であるが、疲れやすいという欠点があるため、いざというときには役に立たないから。
イ 自分だけが名馬に乗っても、家臣たちがついてこれられないのは意味がなく、価値があるとは言えないから。
ウ 自分は一日に千里も馬で走ることはなく、それも常にゆっくり走ればよいので、名馬に乗る必要がないから。
エ 自分だけが名馬に乗ると、家臣の中にはそれをねたむ者が出るため、数万の人馬を束ねられなくなるから。

Empty box for writing answer to Question 6.

3 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある在家人、山寺の僧を信じて、世間・出世深く憑みて、病む事もあれば薬までも問ひけり。この僧、世の中のことと仏道のこと頼りにして

のこぶを煎じて召せ」ととぞ教へ 。これを信じて用ゐるに、万の病癒へざる無し。

煮出して飲みなさい

ある時、馬を失ひて、「いかが仕るべき」と云へば、例の「藤のこぶを煎じて召せ」と云ふ。

心得がたければ、やうぞあるらんと信じて、納得がいかなかったけれども

あまりに取り尽くして近々には無かりければ、山の麓を尋ねける程に、谷のほとりにて、失せたる馬を見付けてけり。これも信の致す所なり。

注 *1 在家人 || 出家していない人。

*2 藤のこぶ || 藤のつるにできるこぶ。煮出して服用すると胃腸薬になる。

(無住『沙石集』)

問一 〈仮名遣い〉 線部「用ゐる」を現代仮名遣いに直し、すべて

ひらがなで書きなさい。

問二 〈動作主〉 線 a ~ d のうち、主語が他と異なるものを一つ選

び、記号で答えなさい。

問三 〈係り結び〉 にはどのような語があてはまりますか。「係

り結び」に注意して、最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア けら イ けり
- ウ ける エ けれ

問四 〈現代語訳〉 線部「万の病癒へざる無し」の現代語訳として

最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア どんな病氣も必ず治った
- イ たくさんの病人の治療をした
- ウ 病氣にかかることがなくなった
- エ すべての病氣に効くというわけではなかった

問五 〈内容理解〉 この文章で述べられている内容に合うものを次のう

ちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 山寺の僧は、信者に頼られる存在であろうとして医学の勉強にも励んでいた。
- イ 山寺の僧は、谷のほとりに生えている藤のこぶを煎じて飲めばいなくなった馬が見つかる、在家人に助言した。
- ウ ある在家人は、僧を信じて藤のこぶを探して回っていると、いなくなった馬を見つめることができた。
- エ ある在家人は山寺の僧から、藤のこぶには願いをかなえる不思議な力があるとだまされ続けた。
